

## 令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 晃陽 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語	53人	社会	53人	数学	53人
	理科	53人	英語	53人		

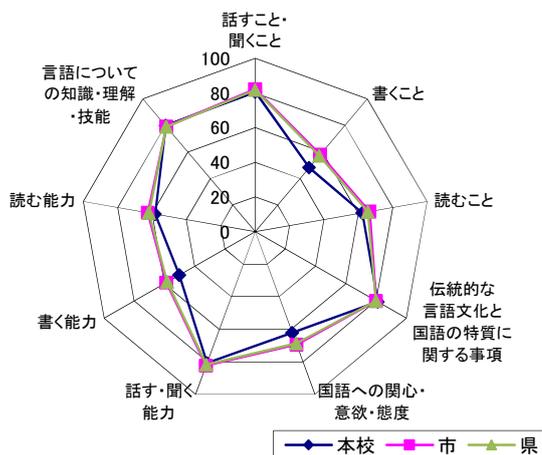
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立晃陽中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.7	82.3	81.8
	書くこと	48.2	58.0	57.2
	読むこと	62.3	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.1	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	62.1	69.4	68.8
	話す・聞く能力	80.7	82.3	81.8
	書く能力	50.1	58.8	58.1
	読む能力	58.2	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	79.8	79.2	79.1



## ★指導の工夫と改善

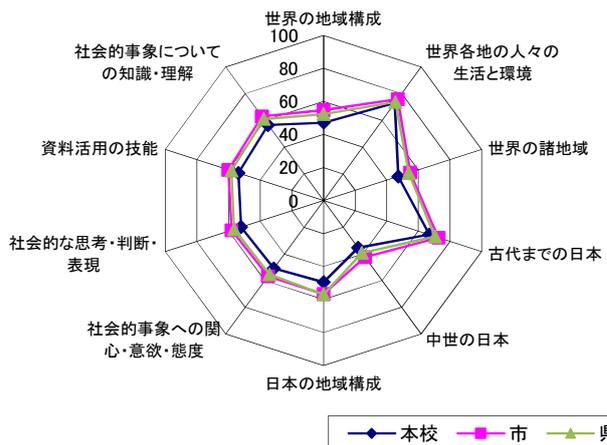
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「司会者の工夫を聞き取ることができる」「相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめることができる」7割以上の正答率であった。 ●市・県とは1～2ポイント下回っている。「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる」について下回ったことにためと考える。	・話し合い活動の中で、自分の考えを論理的に筋道立てて話せるように接続の言葉を適切に使う機会を多く設ける。 ・どの話題から話し、どのように結論に達するかを考え、相手に理解してもらうための効果的な話し方をする機会を多く設ける。
書くこと	○「伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書くことができる」では、市・県とのポイント差がほぼない。 ●「伝えたい文章や事柄について自分の考えを明確に書くことができる」「指定された文字数で書くことができる」「3段落構成で書くことができる」「自分の考えを明確にして書くことができる」は県を10ポイント以上下回った。	・条件作文の機会を設け、一定の時間内に決められた条件の文章を適切に書けるような練習を多く行う。 ・語文訂正の練習を多く行い、主語と述語の関係や修飾語の適切な使い方、そして中心となる意見等について、文章の構成を考えてより良い文章が書けるように練習する。
読むこと	○「文章の表現の特徴をとらえることができる」は県を4ポイント上回った。 ●「文章の構成や展開をとらえることができる」「登場人物の心情をとらえることができる」は県を8ポイント近く下回った。	・文章全体の構成を考えながら読めるように練習を繰り返す。 ・登場人物の心情を、文章内の表現に着目し、とらえられるように練習する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「小学校で学習した漢字を書くことができる」は正答率が高い。 ○「文法・語句に関する知識」では、文節についての理解や歴史的仮名遣いについての理解の正答率が高い。 ●「1学年までに学習した漢字を読むことができる」では正答率が下がっている。	・既習漢字については、授業始めの小テストで繰り返し練習を行い定着を図る。 ・文法・語句については、練習プリントやAIDリルなどを用いて自主学習にもつなげ定着を図る。

# 宇都宮市立晃陽中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	47.2	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	73.0	75.9	73.7
	世界の諸地域	47.3	54.8	53.9
	古代までの日本	66.9	72.7	70.5
	中世の日本	35.4	42.4	39.3
	日本の地域構成	49.5	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	50.8	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	52.0	58.1	56.4
	資料活用スキル	53.8	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	56.6	62.9	61.1



## ★指導の工夫と改善

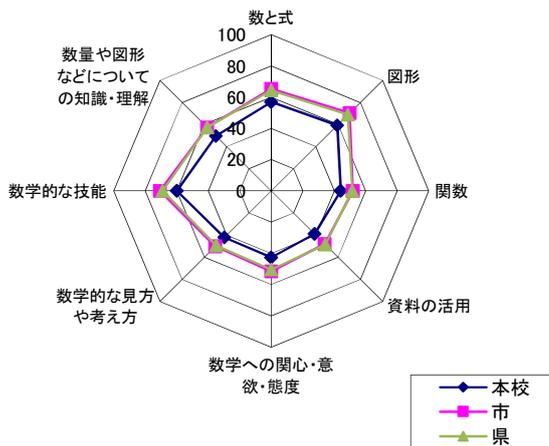
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○モルワイデ図法の特徴について把握することができた。 ●県の平均正答率を下回っている。 ●方位を読み取るために適切な正距方位図法を選択し、それをもとに判断することができなかった。	・地図の読み取りが苦手な生徒が多いことがわかった。受験でも出題されやすいこともあり、これからは地図の読み取りや位置関係の問題をくり返し学習させ学力の定着を図っていく。
世界各地の人々の生活と環境	○世界各地の人々の生活と環境について7割を超える正答率になった。 ●県の平均正答率を下回っている。	・地図とグラフとの関係性を読み取ることが苦手な生徒が多いことがわかった。受験でも出題されやすいこともあり、これからは地図とグラフの読み取りや位置関係の問題をくり返し学習させ学力の定着を図っていく。
世界の諸地域	○ヨーロッパの経済格差について、資料をもとに、判断することができていた。 ●県の平均正答率を下回っている。 ●アジア州の国、自然、産業について理解できていなかった。	・その国の特徴や地形について約半数の生徒が理解できていないことから、視覚教材を活用し、生徒に印象に残るような指導を行っていく。また、資料から解答を導くことが苦手な生徒も多いので、繰り返し問題演習を行う。
古代までの日本	○世紀の表し方について理解していた。 ●県の平均正答率を下回っている。	・いろいろな時代の物事について問われると正答率が下がってしまうので、その時代についての知識を定着させ、他の時代との比較や問題演習を行っていく。
中世の日本	○鎌倉幕府の執権政治について理解していた。 ●御恩と奉公について、資料をもとに把握することができなかった。 ●戦国大名による支配について、資料をもとに判断することができなかった。	・幕府のしくみについて、各時代の幕府の特徴を教え、問題演習などを行う。資料について理解できていない生徒が多数見受けられた、いろいろな資料について、調べ学習や視聴教材を用い知識の定着を図っていく。
日本の地域構成	○排他的経済水域の面積と国土面積から読み取る特徴について資料をもとに判断することができていた。 ●県の平均正答率を下回っている。 ●日本の標準時子午線や領土をめぐる問題について理解できていなかった。	・緯度・経度など忘れていた生徒が多いので、地図帳やタブレットを使い復習を行う。領土問題については、島の名称よりも、写真(島の形)がわからなかったと推察される。よって、写真を見せて領土問題について復習を行う。

# 宇都宮市立晃陽中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	56.9	65.4	64.4
	図形	59.4	70.5	69.0
	関数	44.2	51.9	51.5
	資料の活用	39.0	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	42.6	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	42.1	50.2	49.4
	数学的な技能	59.9	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	49.6	57.5	57.4



## ★指導の工夫と改善

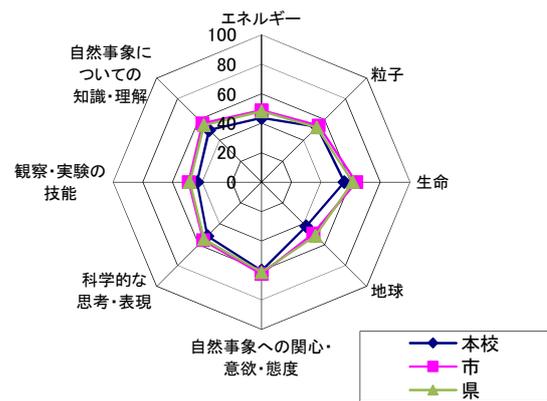
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の絶対値に関しては県正当率と近い値を取っている。 ●文字式の数量を文字式に表す問題の正当率が低い。	・文章からの立式など表現力をつけていく必要がある。
図形	○回転体などの図形を動かしたときの図形の変化に対するイメージを持っている。 ●面積や体積を求積する問題の正当率が低い。	・図形をイメージする力がついているので、求積の公式を整理して、問題に取り組みさせていくようにする。
関数	○表から反比例のグラフの式を求めることができている。 ●式からグラフをかく問題の正当率が低い。	・基本的な知識の定着を図り、それを活用する力を付けさせていくようにする。
資料の活用	○目標を達成できたかどうかを判断するために着目すべき値を選ぶことができている。 ●相対度数についての問題の正当率が低い。	・用語の意味をしっかりとおさえ、何を求めようとしているのかを理解したうえで解けるよう、特に用語の復習に重点をおき、取り組んでいくようにする。

# 宇都宮市立晃陽中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	43.6	48.8	48.1
	粒子	53.0	54.4	52.6
	生命	55.8	63.7	61.5
	地球	42.5	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.1	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	51.7	55.7	54.8
	観察・実験の技能	43.4	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	50.0	56.3	54.8



## ★指導の工夫と改善

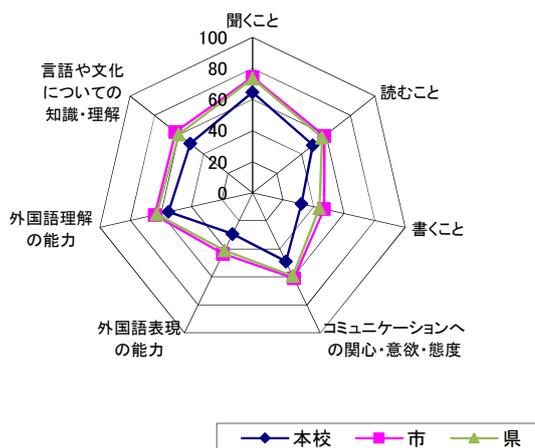
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○2力のつり合いに関する問いの正答率は高かった。 ●光や音の性質のついての正答率が低かった。	・光の屈折や、高い音や低い音の特徴についての理解が不十分だと考えられるので、正しく理解できるよう復習させる。
粒子	○この領域については、県の正答率を上回っている。 ●質量パーセントを求める問や、グラフを読み取る問で、正答率が低い。	・計算やグラフの読み取りなど、数学的な知識及び技能を必要とする問いに対して苦手意識があるようなので、問題演習などを数多くこなし、理解を定着させるようにする。
生命	○植物の体のつくりに関する問いの正答率は高かった。 ●植物や動物の分類や、その分類によるそれぞれの特徴について理解ができていない生徒の割合が低い。 ●正しい顕微鏡の使い方が身に付いている生徒の割合が低い。	・植物や生物の特徴を踏まえた分類について、正しく理解できるよう復習させる。 ・実験や観察に使用する器具については、今後の授業の中で随時指導をし、正しい使い方を確実に定着させる。
地球	○火山岩についてのでき方や特徴については、理解できている生徒が多い。 ●地層に関する問いの正答率は低い。	・いくつかの観察結果などをもとに、推測する問いで正答率が低いので、根拠を整理し結論を導き出す力を高める必要がある。

# 宇都宮市立晃陽中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	64.7	74.4	73.5
	読むこと	49.3	58.7	56.9
	書くこと	32.1	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	49.0	61.0	59.4
	外国語表現の能力	29.3	43.5	41.1
	外国語理解の能力	55.0	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	50.9	62.9	60.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均と8.8%下回っている。</p> <p>○絵を適切に表している英文を聞き取ることができる(動作と場所)の正答率(98.1%)は県(97.1%)を上回った。一文を聞き取るとは苦手意識が低いと考えられる。</p> <p>●英文の要点を聞き取ったり、まとまった対話の内容を聞き取ったりすることが課題である。</p>	<p>・生徒たちにより多くの英語を聞く機会を与えるため、クラスルームイングリッシュを多用したり、英語学習の進度に合わせて語彙や話すスピードを調整しながらスモールトークを継続的にしていく。</p> <p>・ALTとのチームティーチング時には、教師同士の対話の概要を聞き取らせ、まとまりのある英文を聞き取る能力を高めていきたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均と7.6%下回っている。</p> <p>○語形・語法を理解することができる(whose)の正答率(71.7%)は県(70.0%)を上回った。Whoseの要法の理解が見られる。</p> <p>●対話文や長文を読み、内容を把握することに課題がある。</p>	<p>・まとまりのある英文を読み取るための準備段階として、単語及び基本文テストを、授業の帯活動として継続して行う。</p> <p>・教科書の読み取りでは、文の大意を把握したり要点をつかんだりする力を身に付けるよう指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県の平均と11.8%下回っている。</p> <p>○英文を正しい語順で書くことができる。(現在進行形の疑問文)の正答率(50.9%)は県(45.0%)を上回った。現在進行形の定着が見られる。</p> <p>●場面に応じた英作文や情報に基づいて英作文の正答率が低い。状況に応じて、正確に文章を書くことに課題がある。</p>	<p>・文法事項に留意しながら、与えられた単語での並べ替え問題に多く取り組ませ、語順を意識して英作文ができるよう指導していく。</p> <p>・場面や状況設定を設定し、状況に応じた英作文の練習を繰り返すを行い、適切な英文が書けるように指導を行っていく。</p>

## 宇都宮市立晃陽中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習に対する意欲は高く、授業にも家庭学習にも熱心に取り組んでいる様子が見られる。  
 ○基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多く、規範意識が高い生徒についても数多くみられる。  
 ○コミュニケーション力があり、自他のよさについて認められることができる生徒が多いので、自身の役割を理解しクラスなどの集団に貢献できるなど、協力し合いながら、生活しやすい集団を築けている。  
 ●学習内容について授業で満足してしまい、それらを知識及び技能をさらに広めたり深めたりすることや、定着させることについての意識が低い傾向がある。  
 ●将来の夢や目標をもっている生徒の割合が低いので、学習内容等を、自身の将来とを結び付けて指導をしていく必要がある。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の学習習慣の育成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動の充実</li> <li>・思考力、判断力の育成。</li> <li>・自主学習の定着。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制限のある中の授業での話し合い活動について、以前よりも活発に行えるようになり、自分の意見を組み立てて話せるようになってきた。</li> <li>・課題に対して、じっくりと考え、学びを深めることに対しては、まだまだ不得手である。</li> <li>・宿題などの与えられた課題には取り組めるが、主体的に自分に必要な学習に取り組む学習は苦手である。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○主体的に学習に取り組もうとする態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に学習に取り組む態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の時間の中で、目標やめあてに則し、計画的かつ効率的に課題解決に向けて、主体的に、能動的に自分に必要な学習を考えて実行できる姿勢を育てる。</li> </ul>